

農事風土記

丸山隊員が農業にまつわる風土や文化、その他諸々について語ります。

今回のお話は「**田んぼと雑草と、水の話**」です。

「水を入れっぱなしにしておくと、雑草も強くなるんですよ。」丸山隊員が話してくれたのは、この夏の田んぼで感じた「水のむずかしさ」。除草剤を効かせるためには一定期間しっかりと水を張っておく必要がありますが、今年は水口（みなくち）が悪く、思うように水を保てなかったそうです。「代かきをしていない田んぼは地面が硬くて、草が生えやすい。水面を覆うと水温も上がらないし、稲の成長にも影



響します。」オモダカなどの雑草が勢いを増す中で、稲とのせめぎあいを感じた夏。「暑すぎると稲にも草にも良くない。自然との駆け引きですね。」丸山隊員の田んぼは、そうした気づきの積み重ねを経て、今は穂を垂らし静かに秋を迎えています。

木祖村地域おこし協力隊員による
地域おこし新聞

10,11月号

木祖村地域おこし協力隊

@ kisomura_okoshi

@ kisomura_okoshi

@ kisomura.okoshi

お問い合わせは上記 SNS

や、下記メールへどうぞ！

kisomura.okoshi@gmail.com

地域おこし新聞のバックナンバーや地域紙の特別掲載、最新映像など、協力隊の情報が盛りだくさん！！な、公式ホームページも是非ご覧くださいませ◎(上のQRコードよりHPをご覧くださいませ。)



モノ創りの村を志し、木工振興担当桑葉の

続

木育ひとりごと

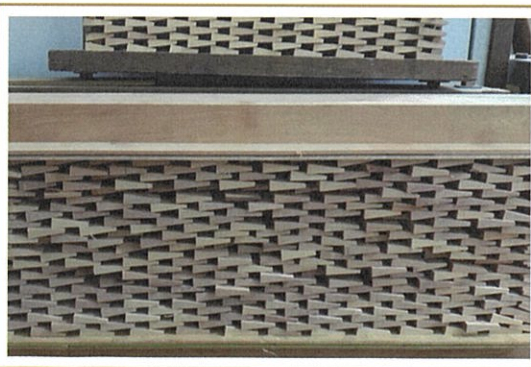
立ち木を切り倒す事、それを伐倒と言います。9月の

ある日、**槐(えんじゅ)の木を伐倒**しました。前回の記事で木材ができるまでを書きましたが、**その始まりの作業です**。槐は粘りがあり硬く床柱になるだけあって重たいです。小径木だったのですが高さが3～4mもあると重さもありあるので、倒す時の音はそれなりにあります。



す。伐倒を普段見ることが無いと思いますが、**木が倒れる時の音や地響きは皆さんの想像より感動的**だと思います。伐倒しているシーンを見てもうることが難しいのが心苦しいですがもし体感する機会がありましたらぜひその音を聞いてみてください。ちなみに**槐は延寿ともいい表す縁起のいい木で重厚感のある焦茶色**をしていますのでたまに目にしてるかもしれませんね。

夏の暑さを忘れてしまうくらい寒くなってきました。といっても櫛挽は屋内での作業が多いので今のうちにやっておかなくてはというのが、あまりありません。ただ、今の設備上、製材は屋外で行っているため、必要量を雪が降る前に終らせてしまおうと思っています。製材後、2年程度締め具で乾燥させてから使う



ので、計画的に下ごしらえを終わらせておかなければと考えています。どのような櫛を作るのかで製材のやり方など都度考えなくてははいけません、それが面白いところでもあると感じています。櫛に限らず、移住してからいろいろな経験をさせてもらいました。櫛作りのセオリーを守りつつ、その経験を活かした個性を少し入れていきたいと思って、2年後の作業、完成品を想像しながら製材を行っています。(井上)

お六の櫛のエトセトラ